

しゃっちょうは行く!

Broaden your horizons 65 ~さあ、視野を広げて!~

こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。

「パソコン&携帯依存症」で、小学生の娘に漢字を尋ねる始末（反省）。心を入れ替え、日本の素晴らしい文化の漢字から、医療を読み取ってみました。

人類の歴史は約5,000年、近代医学の歴史は100年です。日本も江戸時代まで、貴人が病気になった場合、祈祷師が護摩を焚いて平癒を祈願し、巫女が神前で御神楽を舞って祈願していました。そんなことができない庶民は、ただただ、家人の祈りとさまざまなおまじないで神に平癒を祈るのみでした。それが19世紀後半から20世紀前半にかけて、近代医学が勃興し、病気は悪霊や神とは全く関係がないことが分かりました。これは画期的なことでしたが、すぐには受け入れられないことでした。その名残が、もともと「呪術」を意味した旧漢字の略「医」に残されています。

一方、「病」は『ヤマイダレ』と丙とを組み合わせた漢字です。ヤマイダレは屋根とベッドを組み合わせたもの、丙はベッドの上で寝ている状態を表しています。よって「病」とは体調が悪く、家の中で寝込んでいる象形です。

次に「疾病」の疾は『ヤマイダレ』と矢との組み合わせです。つまり、矢のように早い急性を意味します。急に体調が悪くなり寝込んでいる状態です。では「病気」は？病気の「気」の旧漢字は「氣」で、米を蒸かすときに出る蒸気の意味しています。つまり、体調が悪く、心かもややしている状態です。

最後に「患者」は？「患」とは申と心とが組み合わされています。申は物を買って数珠つなぎになっている状態を意味します。「者」とは「～する人」という意味ですから、「患者」とは「心と身体、ともに悪くなっている人」のことです。このように東洋では病気を「心身ともに不調」と捉えていることが分かります。

薬剤師は東洋医学も西洋医学も学びます。カタカナの薬を覚えなければいけません。日本人として、たった1文字に込められた漢字の意味も知っておきたいものです。

お知らせ 「第9回次世代の薬剤師を創る会」を11月18日(日)にメディセレスクール大阪教室で開催いたします。今回は、「薬剤師が知っておくべき内視鏡」神戸薬科大学教授水野成人先生と「スポーツにおける薬剤師の職能」スポーツファーマシスト認定審査委員会大石順子先生にご講演いただきます。研修センターシール3単位です。お待ちしております。

Medisere(メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子